

2025 大阪大学（前期）国語（文学部以外）概評

出題分析			
試験時間	90分	配点: 学部による	大問数 3題
分量 (昨年比較)	[ 減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 ]	難易度変化 (昨年比較) [ 易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化 ]	
<p><b>【概評】</b></p> <p>〈現代文〉 問題文の分量・難易度ともに例年どおりであった。</p> <p>〈古文〉 問題文の分量はやや増加し、総設問数も増加した。ただし、全体的な記述量に変化はない。2024年度同様、解答に字数指定のある設問は出題されなかった。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	現代文（評論） 稲垣諭 『「くぐり抜け」の哲学』  ○行数：85行☑	クラゲを最上位とする食物連鎖がもたらす事態について論じた文章。問一の空欄補充問題は、直前の指示語が水槽で飼育されるクラゲのあり方を指すことに着目する。問四の理由説明問題は、(ア)が飼育されたクラゲを、(イ)が海洋に生きるクラゲを対象としている点に注意する。 ※（昨年度）評論、89行、4問（4）	標準  〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準
II	現代文（評論） 小川さやか 「手放すことで自己を打ち立てる——タンザニアのインフォーマル経済における所有・贈与・人格」  ○行数：65行	タンザニアにおける循環型社会のあり方について論じた文章。問二の内容説明問題は、欧米諸国や日本とタンザニアとの違いを具体的に説明する。問三の内容説明問題は「私的所有論」に言及する。問四の内容説明問題は、傍線部以降の内容を踏まえて解答する。 ※（昨年度）評論、61行、5問（5）	標準  〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準
III	古文（江戸・随筆） 本居宣長 『玉勝間』  ○行数：27行	『伊勢物語』真名本の時代性を考証する文章。問一の現代語訳・内容説明問題と、問二の現代語訳は標準。問三の内容説明問題は、宣長と真淵の考えの違いを踏まえる。問四の現代語訳は「ならでは」「さはえあらぬ」の解釈に注意する。問五の理由説明問題は「旧本」のありようが「よのつねの本」と異なる点を踏まえる。 ※（昨年度）鎌倉・説話、15行、4問（5）	標準  〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。大阪大学の問題文は通常56字/行（20行/頁）。

設問構成（設問数・形式・内容）													
大問 番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その 他
I	4 問 (5)	1	4		2>2	2>2		1					
II	4 問 (4)		4	1>1	3>3								
III	5 問 (6)		6		2>2	1>1				3>3			

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

#### 合格のための学習法

〈現代文〉

大問 I・II ともに相当な記述量が課されるので、日頃から実戦を意識して記述対策をしっかりとっておこう。

〈古文〉

重要語や基礎的な文法事項・熟語や敬語などに留意しながら、丁寧に問題を読み進める習慣を身につけたい。